

## はじめに

筑紫野市は古くから交通の要衝として栄え、様々な文化を受け入れながら、自らも文化の風を起こしてきました。文芸分野もこの地で花開いた文化の一つです。

万葉集には蘆城あしきのうまや駅家、基肆城きいじょう、現在の二日市温泉など市内各地で詠まれた歌が遺され、その後も菅原道真をはじめとして筑紫野の風情が多くの人により詠われています。また「梁塵秘抄りょうじんひ」や「宇治拾遺物語」、「今昔物語」にも、都を遠くはなれた武蔵寺などが登場します。

江戸時代になると、山家の下茶屋にある庭園かいひてい「介干亭」、別名「榊櫻園ちおうえん」と呼ばれた庭園で延享三年(1746)に福岡藩で文芸を志した人たちにより山家の八景を詠んだ漢詩が残されています。また、嘉永三年(1851)、山家宿西構口横に当時の代表的な女性漢詩人である原采蘋はらさいひんが塾を開きました。一方、安政四年(1858)に書かれた「田嶋外伝濱千鳥たじまがいでんはまちどり」という本には往時の原田宿の町並みを伝える「原田駅家之真景」という挿絵の上に原田代官をはじめ、庄屋、関番、などの村役人や筑紫神社大宮司が原田の八景を詠んだ和歌が載せられています。幕末には京を追われ太宰府に滞在した三条実美さんじょうさねとみら五卿と呼ばれる人々が二日市など周辺の人々と交流を深め和歌や漢詩を残しています。

明治22年(1889)、九州鉄道が開通してからは、多くの文人たちがこの二日市温泉を訪れ、作品を残しました。明治29年(1896)の夏目漱石や昭和30年(1955)の高浜虚子はその代表的な人物です。

このように古くから交通の要衝として人々が行き交い、豊かな歴史や自然、景観をもつ筑紫野市。この風土が筑紫出身で日本現代詩人会会長を務めた安西均あんざいひとしを生んだのかもしれない。

私たちは読書活動を通じ、筑紫野市の豊かな歴史や風土を活かし、子どもたちの豊かな心を育てていきたいと思ひます。

筑紫野市教育長 寺崎 和憲

# ●●●●● 目 次 ●●●●●

## 第1章 計画の策定にあたって

1	子どもと読書	1
2	国・県の動向	2
3	計画策定の趣旨	2

## 第2章 計画の基本的な考え方

1	計画の目標	
2	計画の位置づけ	
3	計画の対象	
4	計画の期間	
5	計画の推進体制	

## 第3章 筑紫野市の子どもの読書活動の現状

1	子どもの読書に関するアンケート結果について	4
2	読書活動の状況	7

## 第4章 読書活動推進のための具体的な取り組み

1	家庭における取り組み	10
2	幼稚園・保育所(園)における取り組み	11
3	学校における取り組み	12
4	市民図書館における取り組み	15
5	地域における取り組み	18
6	連携による推進	20
7	子どもの読書活動に関する理解と関心の普及	22

### 資料

1	「筑紫野市子どもの読書に関するアンケート」実施概要	24
2	「筑紫野市子どもの読書に関するアンケート」調査結果	25
3	用語解説	30

# 第1章 計画の策定にあたって

## 1 子どもと読書

人はなぜ本を読むのでしょうか。読書をすることによって、感動をおぼえたり、新たな知識を手に入れたり、想像する楽しさを知ったり…。

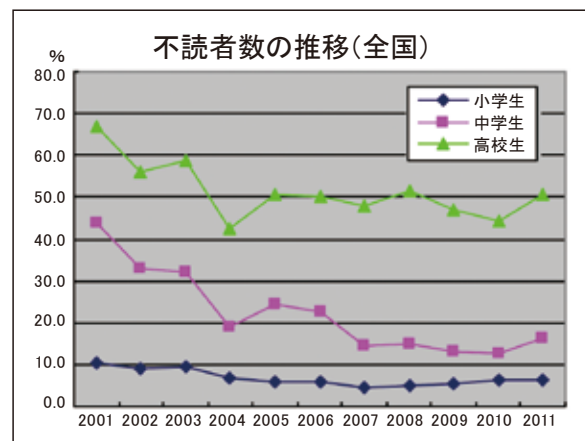
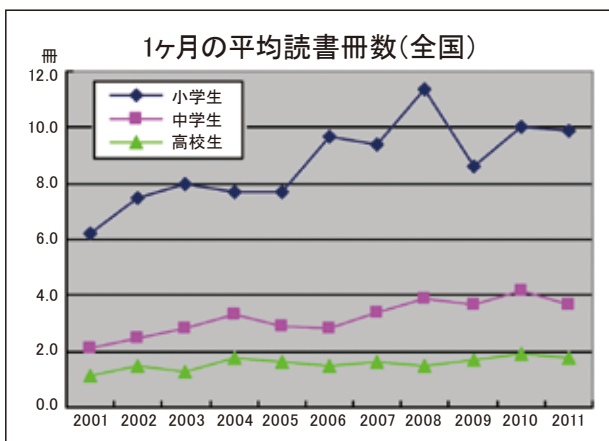
人が本を手にとるとき、そこにはワクワクやドキドキといった期待があります。

子どもたちにとって、読書はどのような意味を持つのでしょうか。全国のデータ(「学校読書調査」全国学校図書館協議会と毎日新聞社が毎年5月に実施)を見ると、読書離れ・活字離れは底を打ち、少しずつではあるものの子どもの読書冊数は増加に転じているようです。朝読書などの学校での取り組みが定着していることも要因として考えられます。

子どもは読書をするすることで、言葉を学び、考える力を身につけ、豊かな情操をはぐくみ、表現力を高めていきます。人間形成の時期に活動の基盤となる価値・教養・感性等を身につけることは、人生をより豊かに、より深く生きる力を身につけることにほかなりません。

しかしながら、平均読書冊数が増加している一方で、各年代での不読者の数が下げ止まりとなっているのは、幼い頃に読書の楽しさに出合う機会がない子どもたちが存在していることや幼い頃の読書習慣が定着していないことを表しているといえます。子どもたちが読書を楽しむことができない、本を読むことから遠ざかってしまうのはなぜでしょうか？

子どもたちが本を手にとるとき、ワクワクやドキドキを、いつもいつまでも感じつづけることができるように、子どもに本との豊かな出会いを提供し、身近に本のある環境を整えて子どもの自発的な読書活動を支える取り組みを私たち大人が積極的に推進していく必要があります。



## 2 国・県の動向

平成13年に「子どもの読書活動の推進に関する法律」が公布・施行され、その中で子どもの読書活動の推進に関する基本理念が定められ、国および地方公共団体の責務が明らかにされました。この法律に基づき、国では平成14年に「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、これに基づく取り組みと成果から平成20年3月に新たな「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定しています。

また、平成17年に「文字・活字文化振興法」が成立、平成18年には教育基本法が改正されたことを受け学校教育法、図書館法が改正されるなど、子どもの読書活動に関する法整備が進んでいます。

福岡県では、平成16年に「福岡県子ども読書推進計画」を策定し、平成22年3月に改定を行っています。この中で子どもたちの自主的な、生涯にわたる読書習慣の確立のため家庭・地域・学校が一体となった読書環境整備に努めていくことや子どもの読書活動の重要性について普及推進していくことが記されています。また、青少年アンビシャス運動、教育力向上福岡県民運動においても、読書を目標や取り組みの柱と位置付け、推進していくこととしています。

## 3 計画策定の趣旨

子どもにとって読書が有意義であること、そして子どもの読書活動のため国・県で計画や関連施策が策定され進められていることについて述べてきましたが、「筑紫野市子どもの読書活動推進計画」はなぜ必要なのでしょう。

計画を策定することは、決して子どもたちに読書を強いることではありません。計画を策定することで、筑紫野市の子どもたちに、大人である私たちが子どもたちの読書を応援していることを伝えることができます。本が身近にある環境を計画的に、継続的に築きあげていくことで、豊かな出会いのきっかけを多く、安定して作り出すことができます。子どもたちのために活動している人たちを応援し、つなぎあわせ、活動を元気づけることができます。

読書に親しんだ子どもたちが、いつか大人になって、子どもの頃に出合った物語や場面、ことばなどを思い返すときに、市民図書館や学校図書館などの筑紫野市の風景がその背景として浮かぶものであったら、なんとうれしいことでしょう。「筑紫野市子どもの読書活動推進計画」が、子どもと本だけでなく、本を仲立ちとして子ども同士、子どもと家庭、子どもと地域、そして子どもと「ふるさと ちくしの」をつなぐものとなることを目指しています。

## 第2章 計画の基本的な考え方

### 1 計画の目標

子どもが読書習慣を身につけ、将来にわたって読書の楽しさを感じることができるように、また読書を通じて家庭や地域とのつながりを深め、「ふるさと ちくしの」への愛着を持つことができるように、読書活動推進のための取り組みを総合的かつ計画的に進めていくことが必要です。本計画では、次の3つを柱として子どもたちの自発的な読書活動を推進していくこととします。

- 子どもがいつでも、どこでも本を気軽に手にとることができる環境をつくります
- 子どもや読書に関する機関・団体が連携して子どもと本をつないでいきます
- 子どもの読書活動への理解と関心を深めていきます

### 2 計画の位置づけ

本計画は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に定める「市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画」や「文字・活字文化振興法」、「福岡県子ども読書推進計画」に基づいた計画であり、本市での子ども読書活動の推進の方向性や具体的取り組みを示したものです。

また、筑紫野市の計画の中での位置づけとしては第四次筑紫野市総合計画の分野別計画のひとつとして位置づけます。

### 3 計画の対象

0歳からおおむね18歳以下の子どもを対象としています。

### 4 計画の期間

平成24年度から平成27年度までの4年間とします。

### 5 計画の推進体制

本計画の推進のためには計画に関わる機関等がそれぞれ主体的に取り組むを進めることはもちろん、市全体で総合的に推進するため体制を整え、進捗状況を把握しながら取り組みの評価・改善を行っていくことが重要です。関係課で組織する「筑紫野市子ども読書活動推進会議」において進行管理や検証を行います。

## 第3章 筑紫野市の子どもの読書活動の現状

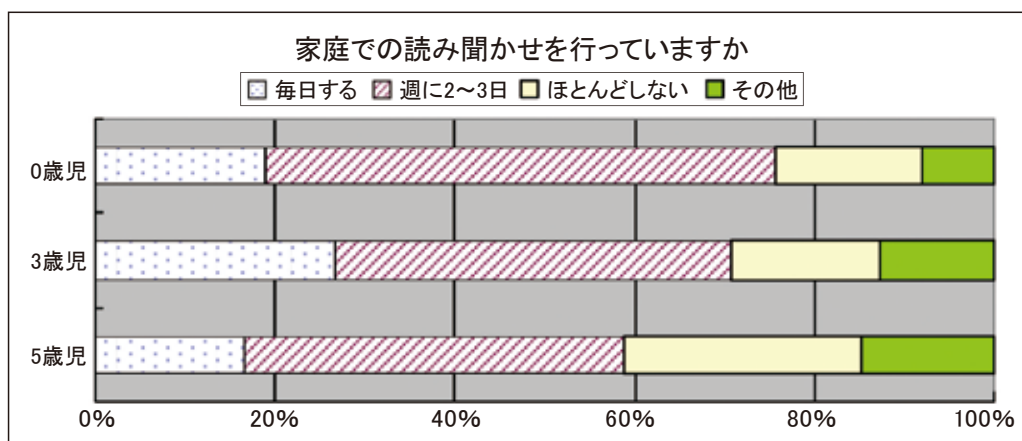
### ① 子どもの読書に関するアンケート結果について

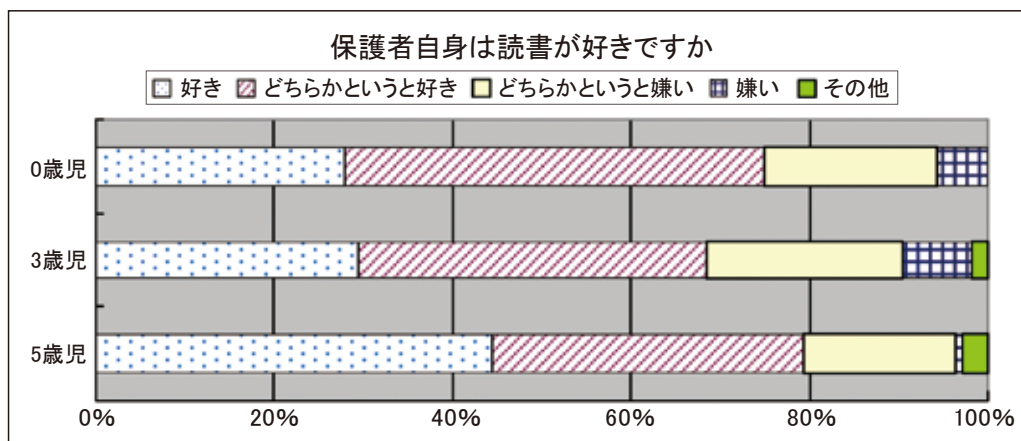
筑紫野市では、平成22年12月に市内の幼稚園・保育所(園)の保護者と、小～高校生(小2、小5、中2、高2)を対象に、「子どもの読書に関するアンケート調査」を行いました。

乳幼児の保護者のアンケートでは、多くの保護者が家庭で読み聞かせを行っていますが、0歳・3歳児の保護者に比べ、5歳児の保護者になると「ほとんどしない」という回答が増えており、保護者の就労体系の変化などにもない読み聞かせの時間の確保が難しくなっていることや、子どもが自ら本を読むことができるようになったことが要因として考えられます。「読み聞かせを行っているのは誰ですか」という問いに対しては圧倒的に母親が多いという回答が得られました。子育てについて男女共同参画が進んでいるといわれていますが、読み聞かせを父親が行っている割合は1割程度にとどまっています。

また、地域での読み聞かせなどについては、参加したことがない保護者が60%を超えており、魅力的なプログラムや参加しやすい開催日程、形態を検討する必要があります。このアンケートは幼稚園・保育所(園)に子どもが通っている保護者を対象としたものなので、比較的に子どもに関する情報が手に入りやすい状況にあると考えられます。それでも地域で読み聞かせなどが開催されていることを知らない保護者は、子どもの年齢が低いほど多い結果になっています。幼稚園・保育所(園)に通っていない子どもの保護者も含め、乳幼児の保護者に対し、いかに情報を届けるかということが重要といえます。

保護者自身については、70%が「読書が好き」「どちらかというが好き」という回答でした。子どもの頃のエピソードとして、自らが読み聞かせを受けたときの暖かい気持ちやドキドキ、興奮などの読み聞かせ自体の思い出に加えて、親子のぬくもりや情景が思い出されたという回答が見られました。多くの保護者が、読み聞かせを自分の体験上よい効果を生むものであることを知っており、子どもにも同じ体験を伝えたいと考えている一方、「読み聞かせをしたほうがいいことは知っているけれども時間が取れない」という記述や「読み聞かせはしたほうがいいのでしょうか」という疑問も見られました。子どもと読書の最初の出合いとなる家庭で、読書のすばらしさ、暖かさが充分認識されるような取り組みが必要です。





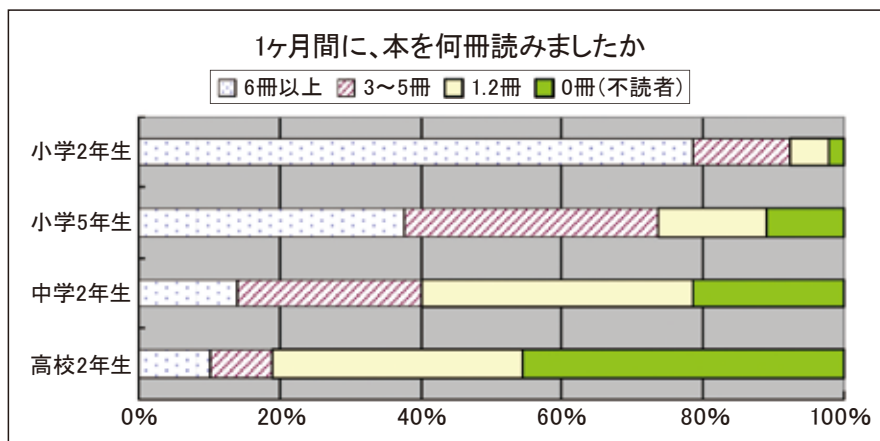
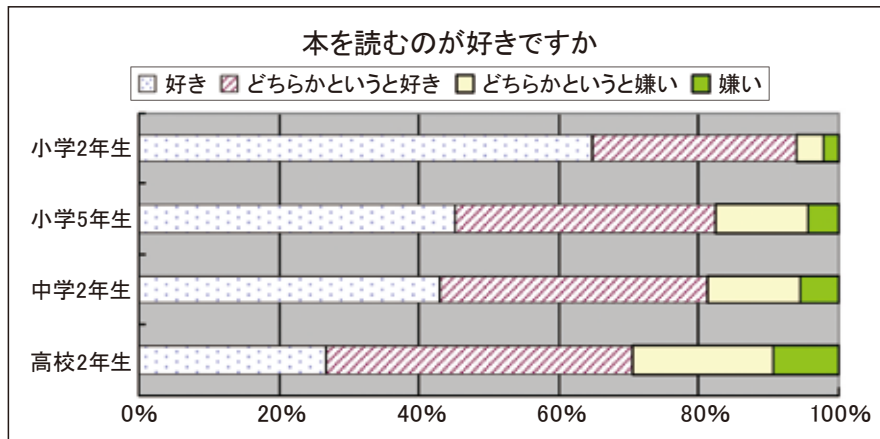
児童生徒を対象としたアンケートでは、「本を読むことが好きですか」の問いに対し、「好き」「どちらかという好き」と答えた児童生徒は、どの年代でも「嫌い」「どちらかという嫌い」よりも多いのですが、高学年になるにつれその割合は減っています。特に、「好き」と答えた児童生徒は、小学2年生では64.8%であるのに対し、高校生になると26.6%にまで下がっています。

1か月の読書平均冊数についても、高学年になるにつれ減少しています。全国調査(「第57回学校読書調査」全国学校図書館協議会・毎日新聞社共催、平成23年実施)によると、小学生の平均冊数は9.9冊、中学生では3.7冊、高校生は1.8冊となっており、高学年の読書離れは全国的な傾向として見られます。また、1か月の間に1冊も本を読まない不読者の割合については、全国では小学生6.2%、中学生16.2%、高校生50.8%であるのに対し、本市では小学生と高校生では下回ったものの、中学生では21.4%と全国の結果を上回っています。

本を読まなかった理由としては小学生低学年では「読みたいけれど読めなかった」子どもが多く、理由として読みたい本がなかったことが多くあげられています。また、小学生高学年以上では「読みたいと思わなかった」を理由とする回答が不読者の過半数をしめており、小学生高学年の不読者はすでに読書への興味自体を失っていることがうかがえます。

高学年になるにつれ読書冊数が減少することは、子どもたちの成長発達の上でスポーツや勉強、趣味など多方面に興味関心が移っていくためやむを得ないことではありますが、小学校低学年のときに感じていた「本が好き」「読書って楽しい」という気持ちをいつまでも持ち続けてほしいものです。そのためにも、若い頃から、また発達段階に応じた心に残る本との出会いをサポートしたり、いつも身近に本があり読書が日常にあるような環境づくりを進めたりすることが大切です。

また、「ふだん学校でどのくらい本を読んでいますか」の問いに対しては、中学2年生で50.4%の生徒が学校で「ほぼ毎日読んでいる」と回答したことが突出しており、学校での朝読書などの取り組みの成果がうかがえます。しかしながら、平均読書冊数、不読者割合から見られるように、本市では中学生の読書離れが深刻です。学校での取り組みから読書習慣へ、用意されたものから自発的なものへと変換、発展させていくための工夫が必要といえます。



図書館の利用についても、高学年になるにつれ減少傾向がみられます。しかしながら、自由記述とした図書館への要望には多くの子どもたちの声が寄せられ、図書館に対する期待の大きさがうかがえます。学校図書館に対しては、図書の充実のほか、本の紹介や検索といったレファレンス機能の充実、マナーの向上や、開館時間の延長を望む声がありました。市民図書館については、利用数は決して多くはないものの、子ども向け(小学生高学年、中高生向け)の本の充実や移動図書館、本の紹介などの要望が数多くありました。これらの要望には、本との出会いの場として子どもたちにとって魅力的な図書館であるためには、どのような取り組みを行うべきかのヒントが多く示されています。





## 2 読書活動の状況

### (1) 家庭・幼稚園・保育所(園)における読書活動

「子どもの読書に関するアンケート調査」及び聞き取り調査から、乳幼児期の読書活動では絵本が重要なウエイトを占めていることや、家庭と幼稚園等の連携により読書活動が進められていることがわかりました。絵本については、家庭で保護者と一緒に楽しむ時間が持たれています。0歳児、3歳児では保護者から読み聞かせてもらうのですが、5歳児になると文字への興味から「これ何という字？」と尋ね、拾い読みができるようになり絵本がより一層身近になってきます。家庭と幼稚園等の連携として、幼稚園等で絵本の貸し出しを行ったり、子どもが自ら好きな本を保護者と一緒に選び持ち帰ったりしています。また、保育所・幼稚園では、図書コーナーを設け、自由に手に取れる場所に本棚が設置されています。子どもたちが思い思いに絵本に親しみ、楽しんでいる姿が見られました。

前出の調査における保護者の読書に対する体験を尋ねる項では、「寝る前に母が読んでくれた。この時間が大好きだった」「祖母に昔話をしてもらった。子どもながらに想像が膨らみ、楽しかった事を覚えている」など、幼い頃の読み聞かせ体験が大人になっても記憶としてはっきり残り、自分の子どもにもそうしてやりたいとの「おもい」が多く見られました。繰り返し読んでもらったことが大人になっても心に残る大切なものである反面、「年齢にあった本の選び方がわからない」「読み聞かせをする時間と心の余裕を持ちたい」との率直な声を聞くこともできました。

このように保護者の絵本に対する「おもい」が子どもへ、次の世代へとつながること、そのためにも子どものみでなく保護者とともに、家庭ぐるみで、より本に親しむことができる環境が整備されることが望まれます。

### (2) 学校における読書活動

市内の小中学校で行った「子ども読書推進計画策定のための調査」では、小学校10校、中学校5校が朝読書活動を取り入れており、特に小学校では、読み聞かせ等でボランティアの活用も進んでいます。また、小学校10校、中学校3校が学級文庫を設置し、朝読書活動で活用しています。このことから本に触れ合う機会を作り、読書習慣が身につくよう取り組んでいることが分かります。

読書推進の取り組みについては、子どもたちが運営する図書委員会と協力し、読書集会や図書祭りを開催したり、学年ごとに目標を設定し、読書の記録をとり、自己の読書活動を振り返ったりするなど、学校ごとに特色ある取り組みがなされています。

本市では、ほとんどの小中学校に図書司書資格を持った事務補助員を配置し、12学級以上の学校では、司書教諭が発令されていますが、時間軽減等の措置がとられていないため、また事務補助員は兼務のため図書館活動に十分な時間がかけられないのが現状です。学校全体で読書活動の推進を行うには、年間を通して読書活動を計画し、子ども一人ひとりに対し指導できる専任の図書司書を配置してほしいという強い要望があります。

また、学校図書館における図書数が少なく、文部科学省が定める「学校図書館図書標準」の達成率は平均で小学校(84.0%)、中学校(63.6%)と低く、図書館内の図書も色あせたものや損傷

が激しいものが多く、新刊本を含めた図書を増やしてほしいという要望があります。

・市内の小中学校数…小学校11校、中学校5校

### (3) 市民図書館における読書活動

市民図書館には、約29万冊の蔵書があり、うち児童書については約6.7万冊を所蔵しています。年間の児童利用冊数は18万冊にのぼります。

市民図書館では子どもたちの利用を積極的に進めるため、児童コーナー、ジュニアコーナーの設置や、本の紹介やおはなし会の案内などを掲載した“ちくしっこ通信・ジュニア通信”の発行を行っています。また、司書やボランティア団体による読み聞かせやブックトークが行われ、本との出会いの場を多く提供しています。

市民図書館の利用促進のため、市内の学校・保育所(園)・幼稚園などに団体貸出しを行うほか、施設見学や体験学習の受け入れを行っています。

また、移動図書館「つくしんぼ号」における児童書の利用冊数は年間1.3万冊にのぼっています。

しかしながら、「子どもの読書に関するアンケート調査」では、読み聞かせや人形劇を望む声や、小学校高学年から中学生向けのいわゆるYA（ヤングアダルト）本の蔵書を増やしてほしいという声が多く聞かれました。また、本の検索方法についても要望の声があがるなど、今あるシステムや催しが子どもたちに十分に知られていない、活用されていない現状が見られます。子どもたちにとって利用しやすい図書館、利用したいと思う図書館となるための取り組みの推進、充実が求められています。

### (4) 地域における読書活動

この項でいう「地域」とは、コミュニティセンター等や小地区公民館など、子どもたちが身近なところで本と出会うことができる場所をいいます。子どもの読書活動を推進する上で重要な役割を促進する場です。

コミュニティセンター等の蔵書は、「やまえ文庫」を設置している山家コミュニティセンターで約2,000冊、筑紫多目的集会施設は約200冊となっています。図書室を併設する筑紫南コミュニティセンターでは、約7,000冊が備えられています。蔵書数が多いほど様々な本が目にとまり、様々な本にふれることができるため、子どもから大人まで、幅広い年代での図書の利用につながっています。その他の施設は、蔵書も少なく、一般利用も少ない状況にあります。

コミュニティセンター等での子どもの読書に関する取り組みとしては、地域のボランティアと協力して「読み聞かせ」「おはなし会」を実施するなど、子どもから大人まで世代を超えて読書への関心を高める活動が行なわれています。

小地区公民館は、それぞれの公民館において図書コーナーの設置状況や蔵書数に差があります。小地区公民館自体も常時開館しているわけではなく、子ども達が気軽に立ち寄り、本を読む環境にあるとはいえません。

子どもの読書活動を推進するにあたり、子どもの一番身近な社会である「地域」において、図書の充実をしていくことはもちろんのことですが、まずそれぞれの施設においてできることから読書への関心を高めていく働きかけを行なうことが必要です。開館時間の拡大、読み聞かせ

をする団体への場の提供、読み聞かせのイベントの実施など、各施設の持てる機能を発揮し、地域の実情に合わせて展開・充実していくことが重要であるといえます。



## 第4章 読書活動推進のための具体的な取り組み

### 1 家庭における取り組み

「家庭」は、乳幼児期の読書習慣を形成するのに重要な役割をもっています。このことは、家庭での役割や家庭における読書活動の推進をしていくうえで、基本となります。

子どもが幼い頃から、本に親しみその楽しさを知るためには、家庭における読書環境の充実が大切です。身近なところに本があり、愛情いっぱいに話しを聞いたり読み聞かせをしてもらったり、一緒に本を楽しんだりすることで、想像力や考える力、豊かな感性や情操、思いやりの心などを学びながら成長していきます。

このことは、本を好きになり、子ども自身が主体的に本を手に取り、楽しむことへとつながります。無理に読ませるのではなく、保護者自身が本に関心を持ち、楽しみながら子どもに読み聞かせなどを行うことが大切です。日常的に本が生活の中にあることが読書の習慣づけをしていくこととなります。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
講演会や読み聞かせ会などへの参加の促進	妊婦を含めた保護者に、読書の楽しさや大切さを伝えるために絵本との出合いの機会を作り積極的に参加するよう働きかけます。	市民図書館 健康推進課	充実
ブックスタート事業の実施	関係課との連携による情報提供や場の設定により子どもや家庭と本との出合いを推進していきます。	市民図書館 子育て支援課 健康推進課	充実
家庭での読書の定着のための取り組み(「ちくしの子ども読書の日」)	4月23日の「子ども読書の日」にちなんで毎月23日を「ちくしの子ども読書の日」とし、家庭で絵本を一緒に親しむ時間を持つように推進します。	市民図書館	新規

#### 【ちくしの子ども読書の日】

子どもたちが読書に親しむ日として、特に家庭での読書を推進する取り組みを行なっていきます。子ども自身への家庭読書の呼びかけや、周りの大人への子どもの家庭での読書のための環境づくりの働きかけを行なっていきます。

※区分…「新規」今後新たに取り組むもの

「充実」既存の取り組みを継続・充実していくもの

## ② 幼稚園・保育所(園)における取り組み

子どもたちは、読み聞かせによって本と出会い、読書活動が始まります。幼稚園や保育所では、身近に本があり、教職員や保育士が読書環境を提供しています。また、家庭と幼稚園・保育所が連携することが家庭での読書につながっていきます。本の貸し出しや本の紹介、あるいは図書館等施設やイベントの紹介を通し、広く読書を楽しむ機会の提供も可能となります。

幼稚園・保育所等では日常の保育活動の中に本があることから、子どもにとっては本の楽しさを知ること、保護者にとっては子どもの読書に対する関心と理解の深まりに、それぞれつながるきっかけが多くあるといえます。子ども自身や保護者へ、読書活動のさまざまな提案ができる環境を生かした取り組みが望まれます。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
講演会や読み聞かせ会などへの参加の促進	保護者に読書の楽しさや大切さを知らせるために、本との出合いの機会を作り積極的に参加するよう働きかけます。	幼稚園・保育所(園) 市民図書館	充実
ボランティアとの連携の強化	地域の様々な人や団体との連携を図り、子どもと本をつなぐ取り組みの輪を広げていきます。	幼稚園・保育所(園) 市民図書館	充実
異年齢との交流の促進	小中学生や地域の高齢者との交流を図りながら、読み聞かせや昔話などの伝承文化を受け継いでいきます。	幼稚園・保育所(園) 市民図書館 各小・中学校 生涯学習課	充実
家庭での読書の定着のための取り組み(「ちくしの子ども読書の日」)	「ちくしの子ども読書の日」や「子ども読書週間」にちなんだ行事や本の貸出し・紹介を通して、家庭での子ども読書の推進を図ります。	市民図書館 幼稚園・保育所(園)	新規
図書館活用の広報・啓発	図書館情報(本やイベント)の紹介を毎月の園だよりなどで積極的に行い、保護者と子どもの図書館利用促進に努めます。	市民図書館 幼稚園・保育所(園)	充実
幼稚園・保育所の蔵書の環境整備	保護者や子どもの目につきやすい場所に本棚を設置し、いつでも手にすることができるよう環境を整えます。	幼稚園・保育所(園)	充実
保育士・幼稚園教諭の研修体制の充実	保育士や幼稚園教諭が読書の進め方や読み聞かせ等の技術を身につけるための研修会や講座に参加できる体制を作ります。	幼稚園・保育所(園)	充実

### ③ 学校における取り組み

学校は学齢期の子どもたちにとって家庭とともに一番身近な学習・生活の場であり、学校での読書体験は生涯にわたる読書習慣の形成に重要な役割を果たします。子ども一人ひとりがその成長段階にしたがって、本を読むことの楽しさ、調べることの面白さを実感し、読書に親しむ態度を育成するためにも、司書教諭や図書司書を中心に教職員が共通認識を持ち、保護者や読書ボランティアと連携して子どもたちの読書活動の支援を行う必要があります。

学校図書館は子どもの豊かな心を育てる読書活動の場としての「読書センター」と、調べ学習を通して新しい発見や知識の獲得ができる場としての「学習情報センター」としての機能があります。その役割を果たすためには学校図書館の蔵書の充実と適切な働きかけができる専任の図書司書の配置が必要となります。

#### (1) 学校図書館における読書環境の整備

子どもたちが学校図書館で読書の楽しさを感じ、また調べ学習ができるよう学校図書館における読書環境の整備を行います。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
学校図書館の図書の充実	学校図書館の図書を充実させることにより図書標準冊数の達成を目指します。	学校教育課 各小・中学校	充実
学校図書館の環境整備	子どもたちが利用しやすい図書館になるよう環境整備に努めます。	教務課 各小・中学校	充実
学級文庫の充実	学級文庫の図書を増やし、身近に本を手にとることができる環境づくりに努めます。	市民図書館 各小・中学校	充実
福岡県事業の活用	学校貸出図書セットモデル事業を利用し、読書支援や教科支援を行います。	学校教育課 各小・中学校	充実

#### (2) 読書活動の充実

子どもたちが読書の楽しさを味わい、読書習慣を身につけることができるよう、子どもたちの読書活動を推進します。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
読書機会の提供	朝の読書活動を実施し、読書習慣が身につくように努めます。	各小・中学校	充実

読書活動の取り組みの充実	「子ども読書の日」や「春・秋の読書週間」などに合わせた取り組みや学校の特色に応じた読書活動の取り組みを行います。また図書だよりを発行し、図書情報の共有に努めます。	各小・中学校	充実
児童・生徒会活動による取り組みの充実	児童・生徒が自主的に読書活動の運営に参加し、子どもたち自身の意見を反映した読書活動を推進します。	各小・中学校	充実
幼稚園・保育所との交流	幼稚園や保育所との交流を通し、読み聞かせを行なうなど、「読んであげることの楽しさ」を感じ、読書に対する活動が多様なものとなるように努めます。	学校教育課 各中学校 幼稚園・保育所	充実
家庭での読書の定着のための取り組み(「ちくしの子ども読書の日」)	「ちくしの子ども読書の日」や「子ども読書週間」にちなんだ行事や本の貸出し・紹介を通して、家庭での子ども読書の推進を図ります。	市民図書館 各小・中学校	新規

### (3) 読書活動を支援する学校職員の充実

学校において、子どもの読書活動を推進するためには、学校の全教職員が読書活動の推進に関わっていくことが不可欠です。その中でも専門知識を持った「司書教諭」「図書司書」は重要な役割を果たすこととなります。

現在配置している図書司書の資格を持った事務補助員の業務の見直しを行い、事務補助員と司書教諭が中心となり、学校における読書活動を推進します。将来的には、小・中学校に専任の図書司書を配置し、中核となって学校での読書活動を推進していきます。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
事務補助員の業務の見直し	事務補助員の業務内容を見直し、学校の読書活動に従事させ、司書教諭と連携して読書推進に努めます。	学校教育課 各小・中学校	新規
専任の図書司書の配置	学校の読書活動に専従できる図書司書を配置し、読書推進に努めます。	学校教育課 各小・中学校	新規
年間計画の作成	学校図書館年間活用計画及び読書指導計画を作成し、計画的な図書館活用や読書指導にあたります。	学校教育課 各小・中学校	新規

情報教育の推進	学校図書館やインターネットを活用した調べ学習をする際に、情報の正誤を適確に判断する能力や、多くの情報から必要かつ正確な情報を収集する力や正確かつ有効な情報を発信する能力が身につくよう働きかけます。	各小・中学校	新規
---------	--	--------	----

#### (4)家庭・ボランティア・市民図書館等との連携

児童・生徒にとって、読書活動の場は学校だけでなく、家庭にもあります。このことから保護者に読書の楽しさ、大切さを理解してもらい、家庭での読書推進に取り組みます。

また、学校、保護者、読書ボランティア、市民図書館、地域が連携できるネットワークをつくり、子どもの読書活動を総合的に支援します。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区 分
保護者への啓発	読書の大切さを保護者にも理解してもらうため学年だよりや図書だよりで啓発を行い、家庭での読書推進に努めます。	各小・中学校	充実
ボランティアの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の読書ボランティアや新たに学生ボランティアとも連携することによりさらに本の読み聞かせを充実させます。</li> <li>保護者や地域ボランティアが協力し、学校図書館の開館時間の増・延長などを検討し、読書に親しむ場や機会の提供に努めます。</li> </ul>	市民図書館 学校教育課 生涯学習課 各小・中学校	新規 充実
市民図書館との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校図書館と市民図書館との図書活用システムを構築し、学校関係者に対する研修会や情報交換会の開催、団体貸出の推進等、図書活動を活発にします。</li> <li>市民図書館の施設見学や職場体験を通して市民図書館への理解を深め利用促進に努めます。</li> </ul>	市民図書館 各小・中学校	充実
放課後児童クラブとの連携	放課後児童クラブにおいて学校図書館の本や市民図書館の団体貸出を利用し、放課後や長期休暇中の読書活動を推進します。	市民図書館 子育て支援課 各小・中学校	充実



## 4 市民図書館における取り組み

市民図書館は、子どもたちにとって良い本、おもしろい本、楽しい本をたくさんそろえており、本との出会いの場であり、読書の楽しさを知ることや読書のきっかけづくりのできる場です。疑問等の解決のために参考資料を調べることができること、本との出会いを助ける司書がいることは大きな魅力です。それぞれに合った本の紹介や、分からないこと、調べたいことについても、司書が手助けを行いながら子どもたちの知的好奇心を育み、満たす取り組みを行っています。また、市民図書館での「読み聞かせ」や「おはなし会」などは保護者と子どもがいっしょに本の楽しさにふれ、本を読む大切さを理解し、本に親しむ心を育むことができる機会です。こうした魅力やさまざまな機会をより多くの子どもたちやその保護者に知ってもらい、活用してもらうための取り組みをさらに充実していきます。

さらに、保護者や読書ボランティア、各学校や保育所等の施設にとっては、子どもの本についての情報や子どもの読書活動に関する最新の情報が得られる場でもあります。情報の集積基地であり発信基地でもある市民図書館を中心に、これらの人や団体、機関をつなぎ、連携を深め、体制を整えることが、全市的な子どもの読書活動の推進に必要不可欠です。

### (1) 乳幼児向けの取り組み

親子のコミュニケーションを通じて、家庭の中で言葉を育てることが大切です。このため、子どもの豊かな感性・情緒を育てるための本との出会いができる場を設けるとともに、保護者をはじめ、子育てに関わる人たちへの啓発に努めます。

幼児期になると言葉の数が徐々に増え、言葉と物事の関わりを理解できるようになり始めることから、読み聞かせ等の本に興味、関心を持つきっかけを提供する事業実施に努めます。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
ブックスタートの実施	乳児を対象にした本との出会いの場の提供と、保護者への読書の重要性や家庭での読書やコミュニケーションの大切さへの気づきにつながる働きかけを行います。	市民図書館 子育て支援課 健康推進課	充実
おはなし会の実施	乳児、幼児を対象とした絵本の読み聞かせなどを行う「おはなし会」を定例で実施し、本との出会いの機会の提供に努めます。	市民図書館	充実
お楽しみ会などの開催	ボランティアによる「お楽しみ会」や、市民図書館主催の「子ども教室」などを行うことで、読書のきっかけづくり、読書活動の推進に努めます。	市民図書館	充実
乳幼児向けの情報の提供	お勧めの絵本や体を使って遊べる「わらべうた」などの紹介や、「おはなし会」などの読書に関するイベントの情報を提供し、家庭での読書活動や図書館の利用促進に努めます。	市民図書館	充実

## (2)小学生向けの取り組み

小学生の時期は読書による知識や想像力を育むことが必要だとされています。このため、読書活動に関する情報を提供するとともに、社会や物事の関連性を学ぶための事業実施や学校や関係機関、団体との連携強化に努めます。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
おはなし会などの実施	図書館や本への興味・理解を深めるため「おはなし会」や「夏休み子ども教室」などの事業の充実に努めます。	市民図書館	充実
小学生向けの情報の提供	お勧めの本、新刊の紹介やおはなし会のスケジュールなどの情報を提供します。	市民図書館	充実
施設見学等の受け入れ	キャリア教育の一環として、また図書館や本への興味・理解を深めるため、施設見学の受け入れの充実に努めます。	市民図書館	充実

## (3)中・高生向けの取り組み

多くの読書体験により、情緒力・想像力・論理力・語彙力など総合的な発達が可能ですが、多くの子どもたちが読書への興味や時間的な余裕を失う傾向が見られます。

その中でも読書に対する興味関心を喚起するため、魅力的な啓発事業や情報の発信を続けていくことが重要です。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
体験学習の受け入れ	施設を活用したキャリア教育、また図書館や本への興味・理解を深めるため、施設見学の受け入れや体験事業の充実に努めます。	市民図書館	充実
中学生・高校生向けの情報の提供	・中学生・高校生にお勧めの本を集めたコーナーを設置します。 ・お勧めの本、新刊の紹介、作家紹介など読書に関する情報を提供します。	市民図書館	新規

## (4)大人向けの取り組み

保護者を含めた大人が読み聞かせ事業等に参加するなど、子どもの読書活動の機会の充実及び習慣化に積極的な役割を果たすことが重要です。大人向けの取り組みの実施で、子どもの読書活動を推進できる役割を果たすことができる大人を育成していきます。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
子どもへの読書支援者の育成	読書ボランティア講座や読書推進講演会・司書派遣など、大人自身の読書に対する意欲の向上を図る催事や、子どもの読み聞かせ等の理解の促進や指導を実施します。	市民図書館	充実

## (6)その他総合的な取り組み

その他、全市的な子どもの読書活動推進のため取り組みの強化を図ります。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
市民図書館の情報提供	<ul style="list-style-type: none"> <li>市広報や市民図書館ホームページで、子ども向けの本も含めた新着本やおはなし会のスケジュール、催し物などの情報を提供します。</li> <li>市広報や市民図書館ホームページに移動図書館車のスケジュールを掲載し、遠隔地の子どもの利用促進を図ります。</li> <li>検索用パソコンの子ども向け検索画面の充実と周知に努めます。</li> </ul>	市民図書館	充実
教育施設等と図書館との連携	市内の各教育施設等との情報交換や課題の共有の場を設けます。	市民図書館 各学校等	充実
団体貸出しの実施	市内の各学校や保育所(園)、幼稚園や地域の文庫などに貸出しを行い子どもの読書活動を行っている団体を支援します。	市民図書館	充実
司書派遣	学校等に司書を派遣し、保護者等を対象とした講習会や児童生徒へのおはなし会等を実施することで、学校図書館等の運営協力や読書の重要性の理解促進を図ります。	市民図書館	充実
司書等を対象とした講座の実施	司書や子どもの読書活動に携わる人たちの資質の向上を目指した講座等を実施し、子どもたちの発達段階やそれぞれの興味関心などに対応できる力を養成していきます。	市民図書館 学校教育課	充実
家庭での読書の定着のための取り組み(「ちくしの子ども読書の日」)	「ちくしの子ども読書の日」や「子ども読書週間」にちなんだ行事や本の貸出し・紹介を通して、家庭での子ども読書の推進を図ります。	市民図書館	新規

## 5 地域における取り組み

子どもの一番身近な社会である「地域」で、読書に関する環境がどのようになっているかは、子どもの読書活動を推進するにあたり、大きな要因となります。子どもの身近なところに本があり、いつでも手に取れる環境が整っていること、学校や図書館とは違う物的・人的環境の中でいつもと違う目線で本を選ぶこと…これらのことは、子どもの読書に幅や奥行きをもたらします。

コミュニティセンター等や小地区公民館それぞれにおいて、地域の実情に合わせた子どもの読書に関する取り組みが検討されることが望まれます。地域ぐるみで、子ども読書活動の重要性について理解し、推進していくことが重要です。

### (1) コミュニティセンター等

コミュニティセンター等は、地域での中核的な施設であり、コミュニティセンター等での取り組みはその地域での読書活動の大きな推進力となるものです。地域での読書活動を充実していくために、子どもたちが本と身近にふれあえるよう環境づくりや、地域で子どもの読書活動を推進する団体の支援、人材の育成に取り組みます。

地域での読書活動については、特に乳幼児と保護者の、本を仲立ちとしたコミュニケーションの場、居場所としての役割の推進といった機能も併せもっています。これからも、地域の特徴にあわせた取り組みの充実が期待されています。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
コミュニティセンター図書 の充実	図書を充実することにより、子どもが身近に本とふれあえるような環境づくりを目指します。	市民協働推進課 各コミュニティセンター等 生涯学習課 市民図書館	充実
読書に関するボランティア 団体等への場の提供	子どもの読書に関する活動を行なうボランティア団体等に場所の提供を行い子どもと本の出合いの機会を図ります。	市民協働推進課 各コミュニティセンター等	充実
読書に関するボランティア 団体等への支援・育成	子どもの読書に関するボランティア団体等と連携や情報の共有を通じ活動を支援します。	市民協働推進課 各コミュニティセンター等 生涯学習課	充実
読書に関するイベントの 広報の充実	コミュニティセンターや地域内で実施される子どもの読書に関するイベントについての情報の収集・発信に努めます。	市民協働推進課 各コミュニティセンター等 市民図書館	充実

## (2)小地区公民館

小地区公民館は、地域の大人や子どもが集い、地域の課題について話し合う機会を持ったり、解決へむけ取り組みを行なったりするための場所です。子どもの読書に関しても、地域が課題意識を持ち、推進する機運が高まること、地域の実情に合わせた取り組みが行なわれることが重要です。それぞれの小地区公民館において、子どもたちが気軽に入館し、図書を読める環境の整備が推進され、地域の読書活動推進拠点となることで、子どもの読書活動のさらなる広がり、充実を目指していきます。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
図書コーナーの設置	地域らしさがでるような温かみのある図書コーナーを設置し、子どもたちが立ち寄りやすい、本を手に取りやすい環境を目指します。	生涯学習課	充実
読書に関するボランティア団体等への場の提供	子どもの読書に関する活動を行なうボランティア団体等に場所の提供を行い子どもと本の出会いの機会を図ります。	生涯学習課	充実



## ⑥ 連携による推進

子どもたちが、いつでも、どんなところでも本に親しむことができる読書環境を作り出すためには、これまで述べてきた個別の施設等での取り組みの充実はもとより、これらが連携してともに子どもたちの本との出会いの場を作り出し、支えていく姿勢をそれぞれが持つことが重要です。連携することによって生まれる情報や意見の交流が、既存の取り組みをより深く豊かなものにしたり、あらたな場や機会の提供の契機となったりすることを期待します。

### (1) 市民図書館と他の施設等との連携

市民図書館を核とする、子どもの読書に関わる施設、機関、団体間のネットワークを形成し、情報の共有を図っていきます。また、ネットワーク間の情報交換、意見交流を盛んにすることで、計画の各事業を市で一丸となって推進していく体制をつくります。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
読書推進コーディネーターの配置	市民図書館を核としたネットワークの構築のため、関係各所の連携を進める「読書推進コーディネーター」の配置に努めます。	市民図書館	新規
団体貸し出しの実施	とくに、学校・コミュニティセンター・小地区公民館・ボランティア団体等への貸し出しについて推進します。	市民図書館	充実
図書館関係職員連絡会議の開催	子どもの読書に関する状況の把握や課題の解決に向け、関係機関の連携を深め実効的な組織として活用します。	市民図書館 学校教育課	充実

## (2) ボランティアとの連携

子どもを地域で育てることを考えたとき、地域で活動するボランティアとの連携は必要不可欠です。子どもの読書活動の推進にあたっては、同様のことが言えます。地域の各施設において活動するボランティアのネットワークを構築し、活動をサポートすることで、子どもの読書活動の推進の拠点を多く地域に築くことができます。また、学校についても「地域の中の学校」、「地域で支える学校」という視点が重要だといわれています。安全管理などの問題もありますが、「地域で支える学校図書館」となることを視野に、多方面での連携を進めていきます。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区分
子ども読書ネットワークの構築	読書活動を行う団体のネットワークを構築し、全市的に読書環境整備を進めていきます。	市民図書館	新規
学校図書館と地域ボランティアの連携	学校図書館の運営や環境整備へ地域のボランティアが参画できるような仕組みをつくり、地域で支える学校図書館を目指します。	市民図書館 学校教育課	新規



## 7 子どもの読書活動に関する理解と関心の普及

本計画の推進のためには、多くの市民に、計画の趣旨や内容はもとより、子どもの読書活動の重要性を十分に理解したうえで、計画推進の担い手となってもらうことが不可欠です。また、読書活動推進の各事業がすべての子どもに広く享受されるものとなるように配慮することも必要です。このため、あらゆる機会を捉えて、計画の広報や、子どもの読書活動の重要性についての啓発に努めていきます。

今後の取り組み	内 容	関 係 課	区 分
「筑紫野市子どもの読書活動推進計画」の周知	「筑紫野市子どもの読書活動推進計画」について、市広報(図書館報)やホームページでの掲載による広報を行い、周知に努めます。また、進捗状況についても公開していきます。	市民図書館	新規
子どもの読書活動の啓発のための取り組み	計画の趣旨や子ども読書活動の意義について理解を深めるため、広く市民に向けた講演会等の開催について検討します。	市民図書館	新規
障がいを持つ子どもへの読書活動推進のための取り組み	さまざまな障がいを持つ子どもたちに、本の楽しさ、読書の楽しさを伝えるため、各施設での配慮やボランティア団体との連携に努めます。	市民図書館 学校教育課 各学校等 生活福祉課	充実
外国籍の子どもへの読書活動推進のための取り組み	各施設において、日本語が母国語ではない子どもたちに、読書の機会の提供や日本語習得手助けとなるような配慮や連携に努めます。	市民図書館 学校教育課 各学校等 市民協働推進課	充実
「ちくしの子ども読書の日」の取り組みの推進	毎月23日の「ちくしの子ども読書の日」の周知を図り、家庭における子どもの読書活動を推進します。	市民図書館 学校教育課	新規



● ● ● ● ● 資 料 目 次 ● ● ● ● ●

1 「筑紫野市子どもの読書に関するアンケート」実施概要	24
2 「筑紫野市子どもの読書に関するアンケート」調査結果	25
3 用語解説	30

## 1 「筑紫野市子どもの読書に関するアンケート」実施概要

### (1) アンケートの目的

「筑紫野市子どもの読書活動推進計画」の策定にあたり、本市の子どもの読書活動の状況を把握することを目的としてアンケート調査を実施する。

### (2) アンケートの概要

調査対象	(1) 市内保育所(園)・幼稚園に通う園児の保護者 保育所(園)・幼稚園それぞれ市立・私立の各1園にて実施 0・3・5歳児の保護者(幼稚園は3・5歳児の保護者) だいいち幼稚園・山家幼稚園(94名) さくら保育園・二日市保育所(193名) (2) 市内小学校児童・中学校生徒 市立小学校・中学校を対象に実施 小学2年・5年児童、中学2年生徒(2,981名) (3) 市内高校 九州産業高校2年生(180名)
調査期間	平成22年12月6日(月)～平成22年12月16日(木)
配付・回収方法	(1) 保育所(園)・幼稚園から子どもを通じ保護者へ配布・回収 (2)(3) 学校において児童生徒に配布・回収
配付数	3,448票
回収数(回収率)	3,265票(94.7%)

## ② 「筑紫野市子どもの読書に関するアンケート」調査結果

○保護者を対象としたアンケート結果

	0歳児		3歳児		5歳児	
	人	%	人	%	人	%
<b>Q1. 家庭での読み聞かせ</b>						
ア)毎日	7	18.9%	29	26.6%	18	16.5%
イ)週に2～3日	21	56.8%	48	44.0%	46	42.2%
ウ)ほとんどしない	6	16.2%	18	16.5%	29	26.6%
エ)その他	3	8.1%	14	12.8%	16	14.7%
<b>Q2. 絵本の読み聞かせは誰がしていますか</b>						
ア)父	8	17.4%	19	13.6%	12	9.7%
イ)母	33	71.7%	103	73.6%	96	77.4%
ウ)祖父母	2	4.3%	11	7.9%	9	7.3%
エ)その他	3	6.5%	7	5.0%	7	5.6%
<b>Q3. 家庭で子どもがテレビ・ゲームをしている時間</b>						
ア)見ない	/	/	3	2.7%	0	0.0%
イ)1～2時間			60	54.5%	54	50.9%
ウ)2～3時間			29	26.4%	33	31.1%
エ)3時間以上			12	10.9%	15	14.2%
オ)その他			6	5.5%	4	3.8%
<b>Q4. 読み聞かせの本の入手法</b>						
ア)家庭にあるもの	26	38.2%	91	39.6%	82	35.0%
イ)購入	13	19.1%	38	16.5%	33	14.1%
ウ)図書館で借りる	7	10.3%	32	13.9%	51	21.8%
エ)保育所(園)・幼稚園で借りる	20	29.4%	64	27.8%	64	27.4%
オ)その他	2	2.9%	5	2.2%	4	1.7%
<b>Q5. 読み聞かせをすることで子どもの変化</b>						
ア)本を読んでとせがむようになった	/	/	/	/	47	24.1%
イ)絵や文字に興味を持つようになった					72	36.9%
ウ)人の話が聞けるようになった					13	6.7%
エ)本が好きになった					55	28.2%
オ)その他					8	4.1%
<b>Q6. 地域での読み聞かせ(おはなし)会に参加したことは</b>						
ア)いつも参加している	0	0.0%	3	2.8%	3	2.8%
イ)ときどき参加している	6	16.2%	18	16.5%	18	16.7%
ウ)参加したことがない	23	62.2%	72	66.1%	68	63.0%
エ)あっていることを知らない	5	13.5%	11	10.1%	8	7.4%
オ)その他	3	8.1%	5	4.6%	11	10.2%

	0歳児		3歳児		5歳児	
	人	%	人	%	人	%
<b>Q9. 保護者自身は読書が好きですか</b>						
ア)好きである	10	27.8%	31	29.5%	47	44.3%
イ)どちらかといえば好きである	17	47.2%	41	39.0%	37	34.9%
ウ)どちらかといえば嫌いである	7	19.4%	23	21.9%	18	17.0%
エ)嫌いである	2	5.6%	8	7.6%	1	0.9%
オ)その他	0	0.0%	2	1.9%	3	2.8%

#### 記述式設問回答

#### Q7. 読み聞かせ(おはなし)会の情報の入手先

- ・図書館
- ・親子教室
- ・広報
- ・友だち
- ・書店

#### Q8. 参加している読み聞かせ(おはなし)会の開催場所

- ・図書館
- ・コミュニティセンター
- ・書店(絵本専門店)

#### Q10. 保護者自身の子どもの頃の読書に関するエピソード

- ・子どもの頃、寝る前に母が読んでくれていた本を、今、子どもに読んでいる。
- ・幼稚園の先生の読み聞かせが好きだった。ドキドキしながら見ていた記憶がある。
- ・童話や昔話を両親に繰り返し読んでもらっていた。
- ・両親とも忙しく、読み聞かせをしてもらったことがないため、自分の子にはしっかり読んでやりたい。
- ・近くの公民館で多くの本を借りて読んだ。
- ・父からひざに抱っこして読んでもらっていた。
- ・祖母に昔話をしてもらっていた。想像が膨らんで楽しみだった。
- ・小学生のときに読書の楽しさを発見。親もおもちゃは買ってくれなかったが本はよく買ってくれた。

#### Q11. その他自由意見

- ・図書館は子どもに冷たいような気がする。
- ・読み聞かせはしたほうがいいのでしょうか。
- ・もっと読み聞かせや紙芝居など子どもが物語に触れ合う場がほしい。
- ・子どもに絵本を読んでいる時間は私も癒されているような気がする。
- ・つくしんぼ号の巡回が最後のほうなのか、本が少ないのが残念。
- ・両親がよく本を読む姿を見て育った。
- ・ブックスタートの引換券に期限がないほうがよい。
- ・読み聞かせに力を入れていることを選定理由に保育所を決めた。

○小学生・中学生・高校生を対象としたアンケート結果

	小学2年生		小学5年生		中学2年生		高校2年生	
	人	%	人	%	人	%	人	%
<b>Q1. 本を読むのが好きですか</b>								
ア)好き	650	64.8%	441	45.2%	361	43.0%	45	26.6%
イ)どちらかというとき好き	292	29.1%	361	37.0%	322	38.3%	74	43.8%
ウ)どちらかというとき嫌い	39	3.9%	131	13.4%	110	13.1%	34	20.1%
エ)嫌い	22	2.2%	42	4.3%	47	5.6%	16	9.5%
<b>Q2. 本を読む理由は何ですか</b>								
ア)おもしろい・楽しいから	748	74.9%	731	74.8%	673	80.7%	114	69.5%
イ)ためになるから	107	10.7%	116	11.9%	58	7.0%	24	14.6%
ウ)友だちが読んでいるから	28	2.8%	27	2.8%	17	2.0%	1	0.6%
エ)家族・先生などから読書をすすめられたから	17	1.7%	38	3.9%	26	3.1%	5	3.0%
オ)調べものをするため	78	7.8%	30	3.1%	23	2.8%	6	3.7%
カ)その他	20	2.0%	35	3.6%	37	4.4%	14	8.5%
<b>Q3. 1ヶ月間に、本を何冊読みましたか</b>								
0冊(※不読者)	22	2.2%	114	11.1%	177	21.4%	77	45.6%
1冊	29	2.9%	56	5.5%	152	18.4%	33	19.5%
2冊	26	2.6%	99	9.7%	166	20.0%	27	16.0%
3冊	45	4.5%	104	10.2%	117	14.1%	12	7.1%
4冊	32	3.2%	84	8.2%	57	6.9%	1	0.6%
5冊	61	6.1%	180	17.6%	43	5.2%	2	1.2%
6冊以上	778	78.3%	387	37.8%	116	14.0%	17	10.1%

※不読者への設問

<b>Q4. 本を読まなかった理由</b>								
ア)読みたかったけれど読めなかった	14	63.6%	41	35.0%	54	30.7%	29	37.7%
イ)読みたいと思わなかった	8	36.4%	76	65.0%	122	69.3%	48	62.3%
<b>Q5. (「読みたかったけれど読めなかった」人)理由</b>								
ア)読みたい本がなかった	8	50.0%	13	28.3%	11	20.8%	8	27.6%
イ)勉強・習い事・塾などで時間がなかった	3	18.8%	14	30.4%	18	34.0%	7	24.1%
ウ)部活動・クラブで時間がなかった	1	6.3%	4	8.7%	9	17.0%	7	24.1%
エ)友だちとすごしたり話したりして時間がなかった	3	18.8%	9	19.6%	4	7.5%	1	3.4%
オ)テレビ・ビデオを見たりゲームなどをしたりして時間がなかった	0	0.0%	3	6.5%	7	13.2%	0	0.0%
カ)その他	1	6.3%	3	6.5%	4	7.5%	6	20.7%
<b>Q6. (「読みたいと思わなかった」人)理由</b>								
ア)本を読むのがきらい	2	20.0%	19	25.7%	19	15.7%	8	16.7%
イ)勉強・習い事・塾のほうが大切だ	1	10.0%	4	5.4%	4	3.3%	4	8.3%
ウ)部活動・クラブのほうがおもしろい	0	0.0%	4	5.4%	19	15.7%	8	16.7%
エ)友だちとすごしたり話したりしているほうが楽しい	1	10.0%	8	10.8%	29	24.0%	6	12.5%
オ)本よりマンガ・雑誌のほうがおもしろい	1	10.0%	18	24.3%	30	24.8%	12	25.0%
カ)本よりテレビやビデオ、ゲームのほうがおもしろい	4	40.0%	16	21.6%	13	10.7%	4	8.3%
キ)その他	1	10.0%	5	6.8%	7	5.8%	6	12.5%

	小学2年生		小学5年生		中学2年生		高校2年生	
	人	%	人	%	人	%	人	%
<b>Q7. ふだん家でどのくらい本を読んでいますか</b>								
ア)ほぼ毎日読んでいる	371	37.8%	198	20.1%	115	13.8%	15	9.0%
イ)週に3日以上読んでいる	233	23.7%	212	21.5%	108	12.9%	10	6.0%
ウ)週に1日くらい読んでいる	194	19.8%	221	22.4%	142	17.0%	19	11.4%
エ)月に1～2日読んでいる	53	5.4%	167	17.0%	131	15.7%	16	9.6%
オ)年に数日読んでいる	25	2.5%	47	4.8%	80	9.6%	31	18.7%
カ)家ではほとんど読まない	106	10.8%	140	14.2%	259	31.0%	75	45.2%
<b>Q8. ふだん学校でどのくらい本を読んでいますか</b>								
ア)ほぼ毎日読んでいる	345	34.5%	290	29.5%	421	50.4%	30	18.2%
イ)週に3日以上読んでいる	247	24.7%	172	17.5%	55	6.6%	10	6.1%
ウ)週に1日くらい読んでいる	222	22.2%	158	16.1%	34	4.1%	7	4.2%
エ)月に1～2日読んでいる	62	6.2%	133	13.5%	61	7.3%	8	4.8%
オ)年に数日読んでいる	27	2.7%	46	4.7%	41	4.9%	16	9.7%
カ)学校ではほとんど読まない	97	9.7%	183	18.6%	223	26.7%	94	57.0%
<b>Q9. 読みたい本をどのようにして用意しますか</b>								
ア)家族に買ってもらう	363	37.2%	410	41.8%	403	48.4%	63	39.1%
イ)学校図書館で借りる	321	32.9%	277	28.2%	88	10.6%	4	2.5%
ウ)学級文庫で借りる	14	1.4%	28	2.9%	8	1.0%	6	3.7%
エ)市民図書館で借りる	213	21.8%	147	15.0%	57	6.8%	4	2.5%
オ)コミュニティセンターや公民館で借りる	23	2.4%	10	1.0%	3	0.4%	0	0.0%
カ)友だちから借りる	20	2.1%	24	2.4%	126	15.1%	33	20.5%
キ)その他	21	2.2%	86	8.8%	148	17.8%	51	31.7%
<b>Q10. 小さいころに家族の人から本を読んでもらったことがありますか</b>								
ア)おとうさん	87	8.7%	68	6.8%	47	5.7%	5	3.0%
イ)おかあさん	591	59.2%	657	65.8%	469	57.3%	94	57.3%
ウ)おじいさん	15	1.5%	12	1.2%	7	0.9%	2	1.2%
エ)おばあさん	53	5.3%	68	6.8%	41	5.0%	9	5.5%
オ)お兄さん・お姉さん	80	8.0%	25	2.5%	13	1.6%	0	0.0%
カ)その他	14	1.4%	21	2.1%	116	14.2%	21	12.8%
キ)読んでもらったことがない	159	15.9%	148	14.8%	125	15.3%	33	20.1%
<b>Q11. 学校図書館について ①授業時間以外で、どのくらい利用していますか</b>								
ア)ほとんど毎日	110	11.2%	49	5.0%	47	5.7%	1	0.6%
イ)週に2～3日くらい	261	26.6%	158	16.2%	46	5.6%	1	0.6%
ウ)週に1日くらい	228	23.2%	209	21.4%	47	5.7%	1	0.6%
エ)月に2～3日くらい	119	12.1%	207	21.2%	70	8.5%	0	0.0%
オ)月に1日くらい	106	10.8%	138	14.1%	57	6.9%	2	1.2%
カ)年に数日くらい	69	7.0%	180	18.4%	310	37.6%	21	12.8%
キ)使ったことがない	89	9.1%	37	3.8%	248	30.1%	138	84.1%

	小学2年生		小学5年生		中学2年生		高校2年生	
	人	%	人	%	人	%	人	%
<b>Q11. 学校図書館について ②よく利用する時間はいつですか</b>								
ア)朝	35	4.0%	41	4.5%	15	2.1%	2	1.8%
イ)休み時間	113	13.0%	123	13.5%	36	4.9%	1	0.9%
ウ)昼休み	499	57.5%	476	52.4%	426	58.4%	5	4.5%
エ)放課後	13	1.5%	13	1.4%	1	0.1%	7	6.3%
オ)決まっていない	208	24.0%	255	28.1%	251	34.4%	96	86.5%
<b>Q12. 市民図書館について ①どのくらい利用していますか</b>								
ア)ほとんど毎日	59	6.2%	9	0.9%	6	0.7%	1	0.6%
イ)週に2～3日くらい	105	11.0%	36	3.7%	6	0.7%	1	0.6%
ウ)週に1日くらい	142	14.9%	69	7.1%	21	2.5%	0	0.0%
エ)月に2～3日くらい	114	12.0%	145	15.0%	42	5.1%	4	2.4%
オ)月に1日くらい	109	11.4%	139	14.4%	53	6.4%	0	0.0%
カ)年に数日くらい	158	16.6%	389	40.2%	452	54.8%	62	37.8%
キ)使ったことがない	266	27.9%	180	18.6%	245	29.7%	96	58.5%

記述式設問回答

<b>Q11. 学校図書館について ③学校図書館に望むこと</b>	
<b>小学2年生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を増やしてほしい、新しい本を読みたい</li> <li>・中休みに利用できるようにしてほしい</li> <li>・貸し出し冊数を増やしてほしい</li> <li>・読み聞かせの回数を増やしてほしい</li> </ul>	<b>小学5年生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を増やしてほしい、新しい本を読みたい</li> <li>・本を検索する機械を入れてほしい</li> <li>・本の修理をしてほしい(汚損・破損)</li> <li>・図書館でのマナーを指導してほしい</li> </ul>
<b>中学2年生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を増やしてほしい、新しい本を読みたい</li> <li>・放課後に利用したい</li> <li>・マナーを指導してほしい</li> </ul>	<b>高校2年生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を増やしてほしい</li> </ul>
<b>Q12. 市民図書館について ②市民図書館に望むこと</b>	
<b>小学2年生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を増やしてほしい、新しい本を読みたい</li> <li>・つくしんぼ号にもっと来てほしい</li> <li>・読み聞かせ・人形劇を増やしてほしい</li> </ul>	<b>小学5年生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を増やしてほしい、新しい本を読みたい</li> <li>・小学生高学年向けの本を置いてほしい</li> <li>・本を探しやすくしてほしい</li> <li>・つくしんぼ号にもっと来てほしい</li> <li>・開館日・開館時間を長くしてほしい</li> </ul>
<b>中学2年生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を増やしてほしい、新しい本を読みたい</li> <li>・本の整理をきちんとしてほしい</li> <li>・貸し出し期間を延ばしてほしい</li> <li>・本の紹介(おすすめ本)をしてほしい</li> </ul>	<b>高校2年生</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を増やしてほしい、新しい本を読みたい</li> <li>・学習スペースがほしい</li> </ul>

### ③ 用語解説

#### 青少年アンビシャス運動

豊かな心、幅広い視野、それぞれの志をもつ(アンビシャスな)たくましい青少年の育成をめざす県民運動。

#### 教育力向上福岡県民運動

大人を中心とした県民一人一人の教育力を高めることで、志をもって意欲的に学び、自立心と思いやりの心をもつ、たくましい子どもを育成していくことをめざす県民運動。

#### 朝の読書活動

クラスや学年、学校の全員が一定時間、好きな本を読むという取り組み。

#### 子ども読書の日

4月23日。平成13年12月に公布・施行された「子どもの読書活動の推進に関する法律」で、国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行なう意欲を高めるために設けられた。

#### こどもの読書週間

読書推進運動協議会が主催。昭和34年から始まっており、こどもの日を含む2週間とされていたが、2000年の「子ども読書年」を機に、4月23日から5月12日までの3週間となった。

#### 学校図書館の図書標準

文部科学省が定める公立義務教育諸学校の学校図書館の蔵書冊数の標準。図書の整備を図る際の目標とする蔵書冊数が定められている。

#### 司書教諭

図書館教育についての専門課程を履修した教員。学校図書館法により、学校図書館の専門的職務を掌らせるため12学級以上のすべての学校に配置されている。

#### レファレンスサービス

何らかの情報を求めている図書館利用者に対し、図書館職員が、図書館の利用方法や図書館にある情報・文献の探し方を提供・援助すること。または、情報・文献の紹介・提供をすること。

#### リクエストサービス

利用者が要求した資料に対して、所蔵の有無に関わらず、図書館が購入や相互貸借などの方法で提供すること。



## 団体貸出サービス

学校や地域の団体利用者に対して、まとまった冊数の図書館資料を一括して貸し出すこと。

## ブックスタート

健診などに参加した赤ちゃんと保護者を対象に絵本などを配布し、絵本の楽しさ大切さや、絵本を仲立ちにして温かく楽しいひと時を持つきっかけづくりを進めるための運動。市内のすべての赤ちゃんと保護者を対象に4ヶ月健診の際に行なわれている。筑紫野市では平成15年から実施。

## 読み聞かせ

主に乳幼児期から小学校低学年の子どもを対象に、話者がともに絵本を見ながら音読を行なう。読書への導入として有効とされ、集中して話を聞く訓練にもなりうる。

## ストーリーテリング

話者がお話を覚えて語って聞かせること。語り、素話ともいう。

## おはなし会

図書館などで行なわれる、読み聞かせ、人形劇、パネルシアターなどを組み合わせた、読書意欲を喚起させるための催しのこと。

## ブックトーク

テーマを定めて関連する本を数冊紹介し、本に興味を抱かせて読書への契機をはかる方法。

## パネルシアター

パネルを貼った布を舞台に絵や文字を貼ったり外したりして展開するおはなし、歌遊び、ゲームなどのこと。

## 読書のためのアニメーション

本を使って、本の内容にあったクイズなどのゲームを楽しみながら、本に対する興味を持たせ、子どもが深く読む力を引き出そうとするもの。

## ヤングアダルト(YA)本

ヤングアダルトとは第2次世界大戦後アメリカの図書館界で使われだした言葉で、おおむね12歳から19歳をさす。児童文学と文学一般の間のカテゴリーとされ、主に中高生向けの図書のことをいう。

**読んですくすく・つくしんぼプラン**  
**筑紫野市子どもの読書活動推進計画**

発行 筑紫野市教育委員会 文化振興課

〒818-8686 福岡県筑紫野市二日市西一丁目1番1号

TEL 092-923-1111

FAX 092-923-5391

E-mail [webmaster@city.chikusino.fukuoka.jp](mailto:webmaster@city.chikusino.fukuoka.jp)

印刷 株式会社 三光